

SGAV (VT 法) 教授法  
参考文献

山内薫

## (1) 「表面的 CA」関連

Anthony, E.M. *Approach, method and technique*. English Language Teaching 17, 63-37, 1963.

岡崎敏雄／岡崎眸（1990）『日本語教育におけるコミュニカティブ・アプローチ』日本語教育学会.

岡崎敏雄／川口義一（1992）『ケーススタディ日本語教育』おうふう.

川口義一（2005a）「日本語教科書における「会話」とは何かーある「本文会話」批判ー」『早稲田大学日本語教育研究』第6号 早稲田大学大学院日本語教育研究科.  
日本語教育 73号（1991）『特集 コミュニカティブ・アプローチをめぐって』日本語教育学会.

野田尚史（2005）『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版.

畠弘巳（1989a）「新しい日本語教育のパラダイム」『日本語学』1989年2月号 pp.79-88、明治書院.

畠弘巳（1989b）「英語教育にみる文法中心主義」『日本語学』1989年3月号 pp.105-115、明治書院.

畠弘巳（1989c）「語学教育を欠いた国語教育」『日本語学』1989年4月号 pp.104-116、明治書院.

畠弘巳（1989d）「伝統としての文法訳読法」『日本語学』1989年5月号 pp.117-129、明治書院.

畠弘巳（1989e）「神話としての直接法」『日本語学』1989年6月号 pp.96-108、明治書院.

畠弘巳（1989f）「科学としてのオーディオリンガル法」『日本語学』1989年7月号 pp.103-116、明治書院.

畠弘巳（1989g）「常識としてのコミュニカティブ・アプローチ」『日本語学』1989年8月号 pp.76-94、明治書院.

畠弘巳（1989h）「会話教育における文法の役割」『日本語学』1989年9月号 pp.92-104、明治書院.

畠弘巳（1989i）「読解教育における文法の役割」『日本語学』1989年10月号 pp.94-105、明治書院.

- 梶弘巳 (1989j) 「話しことばと書きことば」『日本語学』1989年11月号 pp.88-100、  
明治書院。
- 梶弘巳 (1989k) 「学習者の主体性と教師の役割」『日本語学』1989年12月号 pp.82-91、  
明治書院。
- 梶弘巳 (1989l) 「コミュニケーション・アプローチの教室技術」『日本語学』1989年13  
月号 pp.104-114、明治書院。
- 山内薫 (2007) 「外国語教育における「表現指導」 Didactique des langues étrangères  
de communication interactive － SGAV 教授法再考 Réflexion sur la  
méthodologie SGAV－」『SJDF 日本フランス語教育学会 2007年度春季大会（明  
治大学）予稿集／発表資料』SJDF 日本フランス語教育学会。

## (2) 「表現教育」および「環境を見抜く力」の育成 関連

- Austin, J. L., *How to do things with words*, Oxford, Clarendon Press, 1962 (J.L. オ  
ースティン著・坂本百大訳 (1978) 『言語と行為』大修館書店) .
- Blakemore, D., *Understanding utterances*, Oxford, UK : Blackwell, 1992 (D. ブレイ  
クモア著・武内道子／山崎英一訳 (1994) 『ひとは発話をどう理解するか：関連性  
理論入門』ひつじ書房) .
- Grice, H. P., *Studies in the way of words*, Cambridge, Mass. : Harvard University  
Press, 1989 (P. グライス著・清塚邦彦訳 (1998) 『論理と会話』勁草書房) .
- Lieury, A., *Psychologie cognitive: Cours et exercices*, Dunod, Paris, 4ème édition,  
2004.
- Norman, D. A., Rumelhart, D. E. and the LNR research group., *Explorations in  
cognition*, San Francisco, W.H. Freeman, 1975 (D. E. ルーメルハート著・御領  
謙訳 (1979 pp.195-198) 『人間の情報処理 新しい認知心理学へのいざない』サイエ  
ンス社) .
- Omaggio, Alice, H., *Teaching Language in Context* Heinle & Heinle, 1993.
- Raynal, J-M. *La mise en place des premiers apprentissages des automatismes  
linguistiques avec la didactique du Silent Way* 『フランス語教育 23,

- Enseignement du français au Japon』日本フランス語教育学会, ASSOCIATION JAPONAISE DES PROFESSEURS DE FRANÇAIS, 1994-1995.
- Saussure, F. D., *Troisième Cours de Linguistique Générale (1910-1911) : d'après les Cahiers d'Émile Constantin*. (Komatsu, E. Ed.), Oxford :Pergamon Press, 1993 (影浦峽/田中久美子 訳 (2007) 『ソシュール一般言語学講義 : コンスタンタンのノート』東京大学出版会) .
- Searle, J. R. , *Expression and meaning : studies in the theory of speech acts*, Cambridge, Eng. : Cambridge University Press, 1979 (ジョン・R. サール著・山田友幸監訳 (2006) 『表現と意味—言語行為論研究』誠信書房) .
- Sperber, D.& Wilson, D., *Relevance : communication and cognition*, Cambridge, Mass. : Harvard University Press, 1986 (D. スペルベル・D. ウィルソン著・内田聖二他訳 (2000) 『関連性理論—伝達と認知』研究社出版 第2版) .
- Vasseur, M-T. *Rencontres de langues : Question(s) d'interaction*, Brevans, Didier. 2005.
- Winnykamen, F et Troadec, B., *Psychologie cognitive*, Collection Synthèse. Série Psychologie, Armand Colin, Paris, 2004 (3ème tirage).
- Wlodarczyk. A. , *Towards a Unified Treatment of Linguistic Person and Respect –Identification, Japanese Linguistics – European Chapter I*, Kurosio, 2007.
- 池田玲子/館岡洋子 (2007) 『ピア・ラーニング入門』ひつじ書房
- 岡崎敏雄 (1992) 「日本語教育における自律的学習」『広島大学日本語教育学科紀要』2号 pp.9-14 広島大学.
- 岡崎洋三 (2003) 「第2章 個性ゆたかな人間をつくる日本語教育」『人間主義の日本語教育』凡人社.
- 小澤伊久美 (2000) 「パラダイムの転換期にある日本語教育—教育学的見地から日本語教育を考える—」『ICU 日本語教育研究センター紀要 10』国際基督教大学日本語教育研究センター.
- 小澤伊久美 (2001) 「教師教育展望—状況的学修論の視点から—」『ICU 日本語教育研究センター紀要 11』国際基督教大学日本語教育研究センター.
- 蒲谷宏 (2002) 「「意図」とは何か —「意図をどのように捉えるか」—」『紀要』15号 早稲田大学日本語教育研究センター.

- 蒲谷宏 (2006a) 「第一章「敬語表現」と「敬語表現教育」」『敬語表現教育の方法』 大修館書店.
- 蒲谷宏 (2006b) 『敬語コミュニケーション』 早稲田大学日本語教育センター、早稲田大学大学院日本語教育研究科刊、非売品.
- 蒲谷宏／川口義一／坂本恵 (1998) 『敬語表現』 大修館書店.
- 蒲谷宏／川口義一／坂本恵／清ルミ／内海美也子 (2006) 『敬語表現教育の方法』 大修館書店.
- 蒲谷宏／金淑英／照山法元／山内薫／李錦淑 (2007) 『「展開ロールプレイ」の提唱ー「待遇コミュニケーション教育」の一方法としてー』「早稲田大学日本語教育実践研究」第 6 号、早稲田大学大学院日本語教育研究科.
- 鴨山敦史 (2007) 『学習者の自己管理意識を促す支援の試みーコーチングの GROW モデルを援用した協同管理と学習者の気づきからー』早稲田大学教育学研究科修士論文 (未公刊) .
- 川口義一 (2003) 「表現類型論から見た機能の概念ー「働きかける表現」の提唱ー」『講座日本語教育』第 39 分冊早稲田大学日本語教育研究センター.
- 川口義一 (2004) 「表現教育と文法指導の融合ー「働きかける表現」と「語る表現」から見た初級文法ー」『ジャーナル CAJLE』第 6 号 カナダ日本語教育振興会.
- 川口義一 (2005b) 「表現教育への道程ー「語る表現」はいかにして生まれたかー」『講座日本語教育』第 41 分冊 pp.1-17 早稲田大学日本語研究教育センター.
- 川口義一 (2005c) 「文法はいかにして会話に近づくかー「働きかける表現」と「語る表現」のための指導ー」『フランス日本語教育』第 2 号 フランス日本語教師会.
- 川口義一 (2006a) 「文型と意味の結合した指導ー実践例の検証ー」『2006 年度 清華大学日本語文化国際フォーラム 日本語教育分科会』清華大学日本語文化国際フォーラム, 139-140.
- 川口義一 (2006b) 「第IV章 初級からの敬語表現教育」『敬語表現教育の方法』 大修館書店.
- 川口義一／横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック』 ひつじ書房.
- 鎌田修／川口義一／鈴木睦 (2000) 『日本語教授法ワークショップ』(改訂版) 凡人社
- 川上郁雄 (2006) 「第 3 章 年少者日本語教育学の研究主題と方法」『新時代の日本語

- 教育をめざして：早稲田から世界へ発信』明治書院、64-67.
- 川上郁雄（2007）「移動する子どもたち」と JSL バンドスケール」『第 6 回 OPI 国際シンポジウム、プロフィシエンシーと第 2 言語教育 予稿集』関西 OPI 研究会、52-57.
- 塩崎紀子（2007）『応答可能性を引き出す身振り』第一回国際表現言語学会 2007 年度大会（早稲田大学）発表資料.
- 渋谷順子（2005）『円成実性から捉えた生命体としての教師と学習者そして教育—大乗仏教の視点からの The Silent Way と Suggestopedia の再評価—』早稲田大学教育学研究科修士論文、日本サジェストペディア学会.
- 高木美嘉（2006）『行動を促す会話における待遇表現行為の研究—相互行為的会話教育の基礎理論—』早稲田大学教育学研究科博士論文.
- 館岡洋子（2004）「対話的協働学習の可能性—ピア・リーディングの実践からの検討」『東海大学紀要—留学生教育センター』24, 37-46.
- 寺村秀雄編（1989）『講座日本語と日本語教育』第 13 巻, 明治書院.
- 天満美智子（1989）『英文読解のストラテジー』大修館書店.
- 縫部義憲（2001a）『日本語教育学入門』（改訂版）瀝々社.
- 縫部義憲（2001b）「言語文化教育学における日本語教育学の学的構築」『広島大学日本語教育研究』広島大学、第 11 号、23—31.
- 縫部義憲（2003）「ホーリスティック・アプローチと日本語教育理論（1）」『広島大学日本語教育研究』広島大学、第 13 号、9—13.
- 縫部義憲（2005）「ホーリスティック・アプローチと日本語教育理論（2）」『広島大学日本語教育研究』広島大学、第 15 号、15—22.
- 縫部義憲（2006）「ホーリスティック・アプローチと日本語教育理論（3）」『広島大学日本語教育研究』広島大学、第 16 号、1—8.
- 縫部義憲（2007）「ホーリスティック・アプローチと日本語教育理論（4）」『広島大学日本語教育研究』広島大学、第 17 号、41—49.
- 橋内武（1999）『ディスコース—談話の織りなす世界—』くろしお出版.
- 波多野誼余夫編（1980）『自己学習能力を育てる：学校の新しい役割』東京大学出版会.
- 春原憲一郎、横溝紳一郎 編著（2006）『日本語教師の成長と自己研修：新たな教師研修ストラテジーの可能性をめざして』凡人社.

- 平畑奈美 (2006) 『海外で活動する日本人日本語教師に望まれる資質—グラウンデッド・セオリーと因子分析による構造化—』早稲田大学教育学研究科修士論文 (未公開) .
- 藤田哲也 編 (2007) 『絶対役立つ教育心理学：実践の理論、理論を実践』 ミネルヴァ書房.
- 古沢頼雄 編 (1996) 『教育心理学へのアプローチ：教える者が考えること』北樹出版
- 細川英雄 (2003) 『日本語教育は何をめざすか 言語文化活動の理論と実践』明石書店.
- 東森勲 (2003) 『関連性理論の新展開—認知とコミュニケーション』英語学モノグラフシリーズ 21、研究社.
- ミハイル・バフチン (1980) 『言語と文化の記号論：マルクス主義と言語の哲学』ミハイル・バフチン著作集④, 北岡誠司訳, 新時代社.
- マスデン真理子 (1995) 「日本語教育における自律的学習能力の育成—その方法の開発の必要性—」『文学部論叢』47号 pp.1-23 熊本大学.
- 宮崎里司／川上郁雄／細川英雄 (2006) 『新時代の日本語教育をめざして：早稲田から世界へ発信』明治書院.
- 山内薫 (2006a) 「日本語指導における「環境を見抜く力」の育成—「日本語 1 A」と「日本語 1 B」の参与観察を通して—」『2006 年度初級実践研究 春学期レポート集』早稲田大学大学院日本語教育研究科刊、非売品.
- 山内薫 (2006b) 「外国語の学習・教授の「意味」を問う—川口教授法による四つのモデル授業を通して—」『2006 年度外国語教授法 A 春学期レポート集』早稲田大学大学院日本語教育研究科刊、非売品.
- 山内薫 (2006c) 『SGAV 教授法における「表現指導」—会話文検証—』平成 18 年 ヴェルボトナル研究大会 (拓殖大学) 予稿集／発表資料.
- 山内薫 (2007) 「日本語表現教育における「環境を見抜く力」— SGAV 教授法を手がかりとして —」『早稲田大学日本語教育学会 2007 年春季大会研究発表会 資料集』早稲田大学日本語教育学会.
- 山内博之 (2000) 『ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』アルク.
- 山内博之 (2005a) 『OPI の考え方に基づいた日本語教授法：話す能力を高めるために』ひつじ書房.
- 山内博之 (2005b) 「話すための日本語教育文法」『コミュニケーションのための日本語

教育文法』くろしお出版.

山田泉 (1996) 『社会派日本語教育のすすめ』凡人社.

横溝紳一郎 (2004) 「日本語教師教育者の資質としてのコミュニケーション能力一面他  
リングの観点から」『広島大学日本語教育研究』第 14 号、広島大学教育学部日本  
語教育学講座.

### (3) SGAV 関連

Allouche, V. *Trace d'apprentissage*, Le Français dans le monde - N°281 - Mai-juin  
1996.

Besse, H. *Pratique de la classe audio-visuelle au niveau 1*, Paris, CLEDIF, Didier,  
1975.

Besse, H. *Méthodes et Pratiques des manuels de langues*, Paris CLEDIF, Didier,  
1985.

Besse, H. *Cultiver une identité plurielle*, Le Français dans le monde - N°254 -  
Janvier 1993.

Courtilon, J., *Élaborer un cours de FLE*, Paris, Hachette, 2003 (3ème édition).

Cuq, J-P et Gruca, I, *Cours de didactique du français langue étrangère et seconde*,  
Grenoble, Presses Universitaires de Grenoble, 2005.

Félix Lobo/Heinz Morioka/Yasuhiko Kato (1988) 『SOPHIA LINGUISTICA 25』  
Sophia University.

Germain, C. *Évolution de l'enseignement des langues : 5000 ans d'histoire*, Paris,  
CLE international, 1993.

Gschwind-Holtzer, G. *Analyse sociolinguistique de la communication et didactique :  
application à un cours de langue: De Vive Voix, Langues et apprentissage des  
langues*, Paris, Hatier-CREDIF, 1981.

Guberina, P. *Rétrospection*, Zagreb, ARTRESOR, NAKLADA, 2003.

Martinez, P. *LA DIDACTIQUE DES LANGUES ÉTRANGÈRES : VI. – Les  
méthodologies audiovisuelles*, Paris, PUF, 2004, Collection Que Sais-je? (4ème

édition) .

Puren, C. *Innovation et variation en didactique des langues étrangères*, Le Français dans le monde - N°244 - Octobre 1991.

Renard, R. *La méthodologie SGAV d'enseignement des langues: une problématique de l'apprentissage de la parole*, Paris, Didier, 1976.

Renard, R. *VARIATIONS SUR LA PROBLÉMATIQUE SGAV : Essais de didactique des langues*, Paris, Didier, 1993.

Rivenc, P., *Les auteurs du Français Fondamental face à un objet nouveau et insolite: l'interaction orale*, Université de Toulouse2-Le Mirail, 2006.

Roberge, C (1988), *Rominiscences –Looking back upon the Historical Development of the Verbo- tonal Method in Japon-*, SOPHIA LINGUISTICA 25, Sophia University, pp.17-20. 思い出すことなどー日本における VTM の歩みをふり返ってー.

Stanford, B (1988) , *Language Resources, Kobe –The Verbo-tonal Method and Blue Collar Workers-*, SOPHIA LINGUISTICA 25, Sophia University, pp.29-30. 神戸ランゲージ・リソーシズ ; ヴェルボトナル・メソッドと労働者.

北原一敏／内藤史郎編 (1981) 『話しことばの原理と教育-言調聴覚法の理論』明治図書.

木村匡康／井上美穂 (1994) 「ベルボトナル法:理論とフランス語教育への応用」『Études didactiques du FLE au Japon 第3号』Péka.

木村匡康 (1988) 『SGAV 方式に基づく日本語教材作成の試み』『SOPHIA LINGUISTICA 25』Sophia University, pp.125-134.

クロード・ロベルジュ編著 (1979) 『発音矯正と語学教育ーザグレブ言語教育の理論と実際ー』大修館.

クロード・ロベルジュ (1994) 『文法習得に関する考察』言調聴覚論研究シリーズ第 22 巻, 上智大学聴覚言語障害研究センター.

クロード・ロベルジュ／ペタル・グベリナ (1993) 『全体構造視聴覚方式 (サンクルー・ザグレブ方式) の理論的基礎 ーパロールの言語学ー』立花英裕訳, 言調聴覚論研究シリーズ第 20 巻, 上智大学聴覚言語障害研究センター.

クロード・ロベルジュ／レイモン・ルナール (1983) 『SOPHIA LINGUISTICA 14, SGAV 方式による外国語教授法』齊藤征雄訳, Sophia University.

- 小坏博子／木村政康／川口義一／安富雄平編著（2002）『VTS 入門』特定非営利活動法人グベリナ記念ヴェルボトナル普及協会.
- 斉藤征雄（1988）「フランスにおける SGAV 教授法の誕生」『SOPHIA LINGUISTICA 25』 Sophia University, pp.9-10.
- 中川努（1979-1980）「CREDIF の教材 De Vive Voix を通じてみた視聴覚教育の変換」『フランス語教育 8, Enseignement du français au Japon』日本フランス語教育研究協会, ASSOCIATION JAPONAISE DES PROFESSEURS DE FRANÇAIS.
- 中村啓佑／長谷川富子（1995）『フランス語をどのように教えるか』駿河台出版社.
- 西崎愛子（1979-1980）「クレディフ初級教材のわが国大学仏語教育への導入 —問題点の実証的検討—」『フランス語教育 4, Enseignement du français au Japon』日本フランス語教育研究協会, ASSOCIATION JAPONAISE DES PROFESSEURS DE FRANÇAIS.
- 古石篤子（1980-1981）「外国語としてのフランス語教育、その現状と問題点 (français fonctionnel, compétence de communication, un niveau-seuil)」『フランス語教育 9, Enseignement du français au Japon』日本フランス語教育研究協会, ASSOCIATION JAPONAISE DES PROFESSEURS DE FRANÇAIS.
- ペタル・グベリナ（1994）「全体構造＝視聴覚方式：La méthode audio-visuelle structuro-globale」川崎史恵訳、pp.29-70『ヴェルボトナル法入門ヴェルボトナル法入門—ことばへのアプローチ』第三書房.
- 町田章一／小坏博子／木村政康／増田喜治（1994）『言調聴覚論の輪郭』上智大聴覚言語障害研究センター.
- 安富雄平（1997）『スペイン語教育と SGAV メソッド』「拓殖大学語学研究第 86 号」拓殖大学言語文化研究所, pp.69-89.
- ロベルジュ編（1979）『発音矯正と語学教育』大修館書店.
- ロベルジュ監修（1994）『ヴェルボトナル法入門—ことばへのアプローチ』第三書房.